

## 令和3年度第1回小林市地域公共交通活性化協議会・地域公共交通会議 会議要旨

開催日時：令和3年6月30日（水） 10時00分～12時00分

開催場所：小林市地域・観光交流センター「KITTO 小林」

出席者等：出席委員14名、代理出席3名、欠席委員1名、事務局4名

【会議要旨】 ※ □ 内は話者

1. 開会〔事務局〕 委嘱状交付（机上配布）

2. 会長あいさつ〔会長〕

新型コロナウイルス感染症の影響により、各交通事業者も厳しい状況にあると思われる。

また、全国的に人口減少の本格化、高齢者の運転免許の返納の増加、運転手不足の深刻化、公共交通を確保・維持するための公的負担の増加等により、公共交通の維持は容易でない。

今年度においては、地域公共交通のマスタープランとなる「小林市地域公共交通計画」の策定を行うこととなっている。持続可能な地域公共交通の維持・活性化のために、皆様と十分に協議を重ねていきたいと考えているので、ご協力をお願いしたい。

3. 委員及び事務局職員自己紹介〔委員、事務局〕

4. 議事

（1）地域公共交通活性化協議会及び地域公共交通会議概要について【資料1】

及び小林市地域公共交通活性化協議会規約の改正について【資料2】

<質疑>なし

（2）小林市の令和2年度事業実績及び令和3年度事業計画について【資料3】

<質疑>

〔Q. A委員〕

新型コロナウイルス感染症の影響により、各事業者厳しい経営状況にあると思われるが地方バス路線運行維持補助事業の補助額は増額の必要性はないのか。

〔A. 事務局〕

運送収入等の実績（令和2年10月1日～令和3年9月30日）に応じて補助額が決定するため、増額となる可能性は十分にある。前年度同額程度で予算計上している。

〔Q. A委員〕

高齢者の生活基盤である路線バスについては、維持するための支援をお願いしたい。

〔Q. B委員〕

高校生通学費補助の対象者は、所得制限等はあるのか。

〔A. 事務局〕

対象者は、市内在住で市内の高等学校に通学する生徒の保護者。所得制限等の要件はない。

（3）令和3年度小林市地域公共交通活性化協議会事業計画（案）、収支予算（案）及び監査委員の選任について

◆原案承認

#### (4) 令和4年度地域内フィーダー系統確保維持計画について【資料4】

国から市コミュニティバスの補助を受けるために必要な計画であること、路線毎の目標、国庫補助金の算出方法について、概要を説明。

##### ◆原案承認

#### (5) 小林市地域公共交通計画の策定について【資料5】【資料6】

資料6について、九州運輸局宮崎運輸支局より説明。

資料5について、事務局より説明。

##### 〔Q. C委員〕

策定支援業務の調査業務について、都市型の前例等ではなく地域の実状に即したものが必要では。

##### 〔A. 事務局〕

そのとおりであると考え。実際に利用している人に対するヒアリング調査等を行い、小林市の現状を計画に反映したい。

##### 〔Q. D委員〕

計画期間が4年間であるが、新型コロナウイルス感染症の影響等で計画の見直しを行わなければならない可能性もある。適宜、計画の変更は可能なのか。

市民の声を拾う方法は。

パブリックコメントの実績はどのくらいあるのか。

##### 〔A. 事務局〕

柔軟性を持たせることは必要であると考え。方針等を定める計画とは別に目標を達成するため、事業の実施計画も策定する予定である。実施計画については、毎年度、本協議会で内容を協議し、その都度改正できるようにしたいと考えている。

市民の声を幅広く聴取する手段として、利用者ヒアリングだけでなく、無作為抽出で2,000人を対象とした市民アンケート、施設利用者ヒアリング、交通事業者に対するヒアリングを実施する。

パブリックコメントに対する市民の意見については、すべてを把握はできていないわけではないが、前回の交通網形成計画のパブリックコメントの際には数件の意見をいただいた。今回も情報発信方法等を工夫して、意見が頂けるようにしたい。

## 5. その他

〔宮崎交通〕コミュニティバス、路線バスの現況について

○コミュニティバス（利用実績は別添資料に記載）

○路線バス 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて軒並み減少した。

乗車人数前年比 宮崎空港線 74%、都城線 75.6%、  
京町線 89.3%、祓川線 81.8%

##### 〔小林警察署〕

今年の小林市内の物損事故328件、人身事故84件、負傷者93人。昨年より減少（コロナによる人流の減のため）。

第1当事者 高齢者が25%を占める。被害者側も高齢者が80%以上（全国ワースト2位）。

高齢者の制限運転を推進（夜は運転しない、雨の日は運転しない、通学時間は運転しない等）。高齢者自身がルールを決める。

小林警察署と市が連携して「見ゆいごっすっど運動」を実施し、歩く高齢者が運転手から見えるようになり被害者にならない対策を行う。

〔JR九州〕

一昨年、豪雨災害時の復旧に際しては、小林市の協力によって1ヶ月程度で復旧することができた。

昨年度、鹿児島本線で2カ所ほど法面が崩れ1ヶ月ほど不便をお掛けした。熊本県の肥薩線については復旧のめども立っていない状況である。

復旧については迅速に行いたいと考えているが、コロナの影響により収入が半減しており、コスト削減に力を入れているところであり、法面のふきつけ部分や用地外の樹木の伐採等への対応については、改めて協力をお願いしたい。

また、現在、コスト削減及び作業員の安全確保のため夜間に実施していた線路等のメンテナンスや工事を平日の昼間に電車を止めて実施している。学生等の不便が発生しないように十分注意をして実施する。

最後に、利用促進のために、様々なご依頼をすることがあると思うが、今後ともご協力をお願いしたい。

## 6. 閉会〔事務局〕